

【これまでの変化】

下記の図には、これまでの周囲長の変化を示しています。これを見ると、年を経るに従って周囲長が大きくなっていることがわかります。また、下記の図からは、会が過去、どのような間伐を行ってきたのかも知ることができます。旧Bコドラートでは、2000年前後に、旧Aコドラートでは少し遅れて、2003年ごろに多くの線が途切れています。これは、その時期に間伐が行われたことを示しています。また、間伐木と間伐されていない木を比較すると、間伐していない木の方が当時の周囲長が大きかったことがわかります。これは、会が大きな木を育てるために、小さい木から間伐を行ってきたことを示しています。

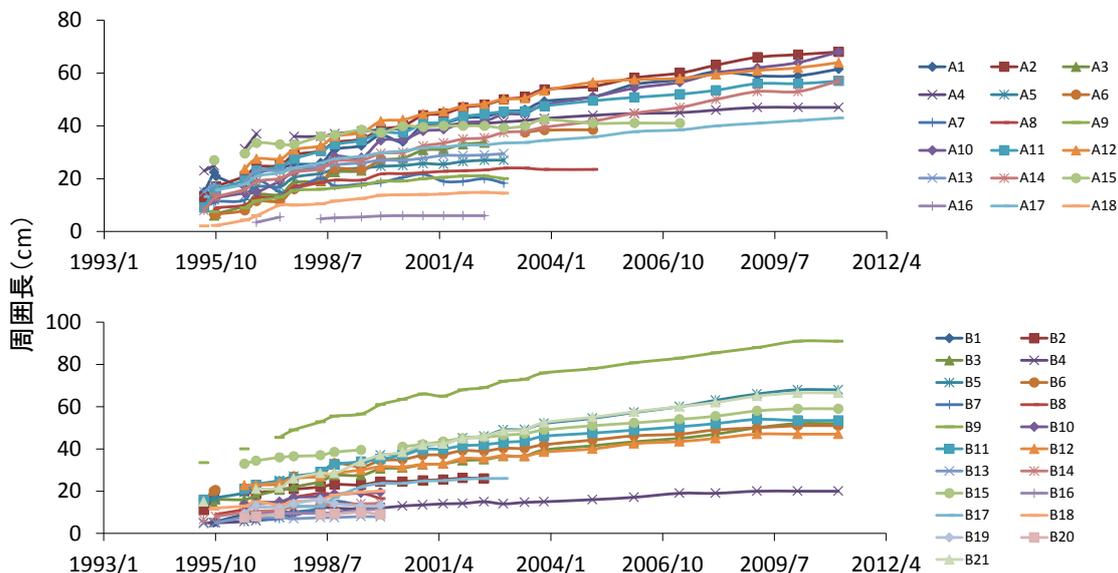


図 旧Aコドラート（上）と旧Bコドラート（下）の周囲長の経年変化

続いて下の図には、間伐されなかった木の胸高断面積（きょうこうだんめんせき）の平均値を示しています。胸高断面積とは、人間の胸の高さで木の輪切りをとった場合の断面積です。これを見ると、年を経るに従って胸高断面積も大きくなっており、昔と今とで大きな違いはありません。このようにクヌギが成長を続けているのは、会の間伐の成果かもしれません。このような長期間に渡る生長調査のデータはとても貴重なものです。今後は、もう少し細かい視点で調査結果を見ていこうと思っています。そうすれば、となりの木を間伐したら生長が良くなったってことなんかも、調査結果から見えてくるかもしれません。

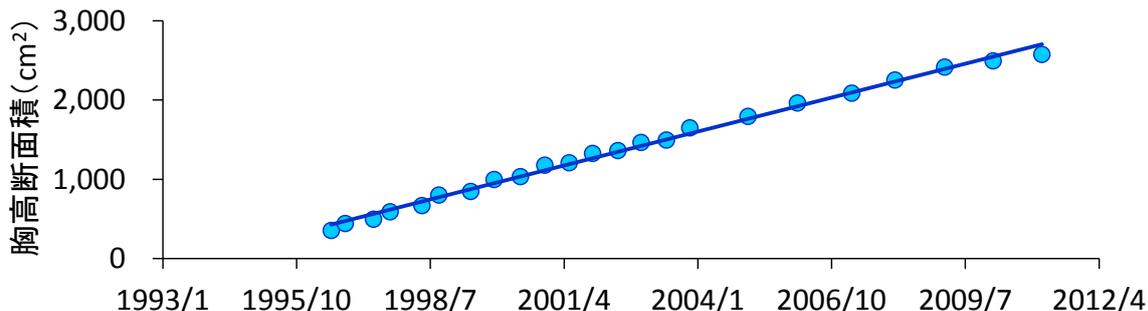


図 胸高断面積の平均値の経年変化